

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4078400092
法人名	医療法人八女発心会
事業所名	グループホーム 舞風台 (ユニット名 かえで・さつき・さくら)
所在地	福岡県八女郡広川町大字水原1498
自己評価作成日	平成23年6月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅前中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成23年8月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

広川町が見渡せる高台の広大な敷地の中に建設されたグループホーム舞風台は、春夏秋冬の夫々の季節が身近に感じられ、完全バリアフリーの施設からは簡単に戸外に出る事が出来ます。遊歩道からの眺めは住み慣れた地域を見渡す事が出来、安心して生活していただく事が出来ます。近くには町立の保育園があり、定期的に園外保育の訪問をして頂いています。また、法人内にはリハビリ専門学院があり、学生の実習を通して、ふれあいやゲームを楽しんで頂く事も出来ます。年間行事も各種花見見学会、夏祭り等多彩に開催され、入居者の皆様に喜んで頂いております。法人内には地域医療を主眼にした姫野病院があり、同じ敷地内には介護老人保健施設も併設されており、医療連携も十分にとれて、安心して生活できる施設です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、利用者が住み慣れた町が一望できる環境の良い高台に造られたホームである。法人の老人保健施設開設の次年度に建てられたグループホームである。開設より11年目になるホームは、3ユニット27名の利用者が入居されている。老人保健施設、グループホーム共に平屋建てになっており、ホーム内はバリアフリーで、車椅子や歩行器の使用に支障がない造りとなっている。地域交流では保育園児たちの訪問があり入居者の楽しみになっている。また、広い敷地内の庭先を自由に散歩し、利用者が気分転換を図れる様になっている。廊下続きに介護老人保健施設があり、リハビリに対するアドバイスを貰う事が出来る。広川で一番高台に立っている事で災害時には地域の方々の避難所として利用して頂けるようになっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「やすらぎ・思いやり・連帯・地域密着」を礎に中央の広場に掲示し、いつでも誰でも見える様にし日常生活につなげている。	各ユニットに理念を掲示しており、また、毎朝朝礼で唱和する事により職員全員が理念を共有することが出来ている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の清掃活動や夏祭り・敬老会等地域のイベントに参加すると共にホームの行事にも地域からの参加を呼びかけボランティアの参加も増えている。	2年前に地域の方の理解を得て、自治会に入る事が出来た。ホームの夏祭りへの参加を呼び掛けたり、近隣の保育園の散歩コースになり、おにぎりを持って虫取りを楽しんで頂いたりしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職場体験(小・中・高)や地域役員の方々に会議等の中で認知症の人の理解を広めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年迄は2~3ヶ月でしたが、今年より2ヶ月に1回開催の際には施設内の現状や地域の現状の話をし意見交換を行っている。	区長、前区長、広川町健康福祉課、民生委員、老人保健施設事務長、家族、管理者の参加のもとホームの近況報告や健康福祉課から超高齢社会に向けての対策について健康サロンの提案が出ている。本年は、2ヶ月1回の運営推進会議の実施に努めているが、3ヶ月1回に留まり、なかなか実現できていない。	忙しい業務の中ではあるが、今一度、運営推進会議の実施時期や回数について、より多くの意見交換をしながら、サービスの向上が図れるものになるよう検討することを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂いているので様々な事柄の問題についての問い合わせをし相談にのって頂いている。	情報の公表についての問い合わせ、提出書類についての問い合わせをしたり、また、役場からホームの空き状況や入居依頼の問い合わせがある等、日常的に連絡を取り協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービスにおける禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置されており毎月1回話し合いや各ユニットの状況等出し合い拘束なしである。	月1回、老人保健施設と合同で全体研修を行っている。身体拘束については研修月に4回行われ、必ず全職員が受講出来るようになっている。また、月1回のユニット毎の定例会で研修内容を報告し全職員が身体拘束をしないケアについて理解出来ている。出入口は施錠はしていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修を開催し周知徹底を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	月に1回実施されている全体研修にて学ぶ機会がありました又必要な事例があった時に再度職員同士で学習しました。	各種の委員会があり、職員はそれぞれ各委員会に所属しており、月1回の全体研修で受講し、ユニット毎の定例会で委員会報告を行い、全職員に周知出来るようにしている。現在、1名の方が成年後見制度を利用している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設内の見学をして頂き十分な説明後不安や疑問がある時は対応している。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族用の意見箱を設置している。面会時には必ず利用者様の状況等お話し、その中で要望等を汲み取っている。	利用者からは日々の会話の中から聴き取ったり、家族からは訪問時に親しく会話する中で、意見や要望が言い易いように配慮している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月定例会を開き、その後ユニット会議を行い、それぞれの意見及び提案等を聞き話し合いを行っている。	定例会後の、ユニット会議で職員一人ひとりに対して意見や提案等を聴く機会にしている。シャワーチェア等の購入や運動用の滑車をつくるなどの提案があり、サービスの向上に取り組まれている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	新しい介護法を取り入れ入所者には暮らしやすい環境、スタッフには身体に負担の少ない介護法で取り組んでいる。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	採用にあたり性別・年齢等条件なし。職員についても個々の得意分野・経験・知識を活かせるよう配慮している。	採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除していない。職員はそれぞれに得意とする分野で(レクリエーションや企画・体操等)能力発揮できており、また、有給休暇も取りやすく配慮されている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	施設内で勉強会を実施。定例会・朝礼等に講話を行っている。	月1回の全体研修を行い、参加した職員は、ユニット毎の定例会で委員会報告を行い、全職員に周知出来るようにしている。業務日誌等の記録物は職員のみが目に見える場所に管理している。声掛け等で不適切な場合には職員間で注意するようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部から講師を招き新しい介護法を取り入れ全員が受講出来る様にしている。又、再度勉強会を開きしっかり身に付けられる様に努力している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福岡県GH協議会やGH部会等の会議に参加し、他施設との交流を深めている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアプラン作成時にまず環境に慣れて頂ける様にと挙げている。見直す時慣れてこられた際に要望を聞き取り入れケアプラン変更している。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時に近況報告行い又何かしら要望等あればスタッフ間で相談し実施している。ご家族との会話を第一に考えている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネージャーを中心にカンファレンス行い、最優先事項を作っている。必要に応じ他の医療機関に受診したりしている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	何でも介助するのではなく出来る事はして頂き「役割」の様に思ってもらえるかと思う。無理にはお願いはしていない。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会時に入所者様の情報共有することでご家族にご協力して頂くこともある。入所者様をご家族と支え合える関係作りに努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人様が希望される事は必ずご家族に伝え協力を得ている。	娘や孫への手紙を書いた時には、職員は直ぐに投函している。また、隣組の知人の訪問時には快く歓迎している。利用者が馴染みの場所等へ外出を希望する時には家族に相談して、できるだけ希望に添えるように支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ユニットでの活動や全体での体操等に参加して頂き閉じこもった生活にならない様に努力している。又認知症の度合いで話が合わない事があれば席の移動をしたりしている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	併設の老健や関連病院への入院の際は訪問・挨拶の伺うこともある。何らかの支援が必要な場合はすぐ出来る様にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人ご家族の希望を伺いアセスメントを作成し入居者の日々の生活状態を記録し職員で話し合い入居者の思いご意向の把握に努めている。リハビリはないですが希望される方は病院へ行ってされたりできる範囲で対応している。	日常の業務の中で常に声かけをしながら、本人の暮らし方の希望や意向の把握に努めている。困難な場合は本人の状態を観察したり表情を確認、また家族より聴き取り職員間で話し合い本人本位に検討をしている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人ご家族より聞き取り情報収集しこれまでの生活を出来る限り続けその人らしく過ごして頂ける様努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人のその日の状態に応じて対応しその状態の申し送りを職員間で共有し現状の把握に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントを基に担当者が計画案しケアマネージャー・管理者・作成担当者・担当者の話し合いで計画を決定する。医療面での指示が必要な時は主治医にリハビリ面では併設の理学療法士に意見を求めている。	定例会の時に担当者が本人の情報を提供し、他の職員からも情報を貰い計画作成担当者がまとめケアマネージャーが介護計画を作成している。家族からは面談時に意見を頂いたり、遠方の家族には電話で確認をしている。また医療面では主治医や併設の老人保健施設の理学療法士から意見を求めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日状態の記録をし職員・本人・家族と相談して介護計画を行っている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の希望があれば宿泊や終末期の泊り込みも受け入れている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人様が希望される事は必ずご家族に伝え協力を得ている。興味を持たれた事を日々の活動に取り入れ楽しんで頂いている。又慰問等を受け入れ楽しんで頂いている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診はご本人・ご家族野意見を尊重し納得された上で医療を受けられている。付き添い必要であれば行い説明受けたり薬の受け取りを行っている。	入居契約時にかかりつけ医の継続受診が出来ることを伝えているが、現在全員の利用者が協力医の往診を希望している。他科受診は原則家族対応をお願いしているが、必要な方は受診の支援を行っており、他科への必要な情報の提供を行ったり、情報を受け連携を取っている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	老健の看護師とは往診ノートの活用にて情報共有に努めている。又夜間の急変にも対応して頂いている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の社会福祉士を通じて治療の状況や退院後の生活について情報交換を行っている。入院時も介護添書でGHでの状態を伝えている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日頃の状態や何かあった時はご家族に連絡したり面会時にお話している。その様な場合は早々にお話しし今後についてなとつくいくお話しが出来る様に取り組んでいる。	希望される方には看取りまで行っている。その際は、大切なことはその都度、医師、家族、職員とで話し合いを行い方針を共有している。終末期は原則家族に宿泊をお願いしているが、職員で出来る事は説明しチームで支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当は会議にて定期的に訓練と勉強会を行っている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を行っており全職員が身につけるようにして又新人スタッフに消火訓練を行い全職員が消火器を使える様にしている。	年2回消防署立会の元、夜間想定避難訓練1回、昼間想定避難訓練を1回行っている。その際通報訓練、消火訓練も一緒に行っている。地域に協力を要請したが立地また地域の環境的に難しく逆に地域で一番高台にあるため水害時に地域の避難先にして欲しいとの要望があり引き受けた。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重し声掛けを行っている。個人記録等はパソコンにて保管している。情報を用いる時は同意を得ている。	一人ひとりの人格や誇りを傷つけない声かけに気をつけているが、少しでも反した職員がいればその都度注意をしかけている。個人情報に関してパソコンで管理し書類はドアの鍵がかかる部屋に保管をしている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	スタッフ一人一人が気に掛け利用者に問い掛けを行い希望を聞き希望が出れば受け入れている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の行動パターンを把握しそれに沿って一人一人の希望に応えられる様に支援しています。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	つきに1回訪問美容室の訪問があるので利用して頂いている。本人様やご家族の希望で行い慣れた美容室に行かれる方もおられる。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の好みを聞き喜んで頂ける様な食事作りを行っています。又一緒に食事をとりながら利用者の好みを把握しています。	以前は一緒に調理を行っていたが、心身状況の重度化にともない、現在は、参加出来る方は献立を考えたり、もやしの禰切り、しめじの房分け、テーブル拭き等を手伝ってもらっている。職員は全員利用者と同じテーブルで会話を楽しみながら同じ食事をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分共に摂取量を個別に記録している。栄養・カロリーバランス等は併設老健の管理栄養士によるチェックえおしてもらっている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の状態に応じた道具により口腔内の清潔保持に努めている。又年1回歯科検診に向けてアセスメントを行っている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録に基づいて個々の排泄パターンを把握しトイレ誘導を行っている。	排泄記録をつけ排泄パターンを掴み、本人の動きから感じ取りトイレ誘導をする事で、オムツの使用が減りトイレでの排泄が多くなってきた。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排泄回数や便の状態のチェックを行い適度な運動や水分摂取に努めている。必要時は下剤の調整も行っている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は月・木曜日と決まっているが個々の希望に応じ支援している。	入浴は月・木曜日に行っている。時間は特に決まりはなく行事や職員の配置等で適宜行っている。また、汚染があったり入浴当日に入浴が行えなかった利用者にはシャワー浴を行っている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のご希望によりなじみの使い慣れたものを使用して頂いている。又ベッドの他にソファ等でも安眠確保を行っている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の処方箋を確認。又服薬事の見守り確認を行っている。医師と相談しながら薬剤の調整も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食材揃えや下用タオル巻き体操・遊びりテーション・散歩などを行っている。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的な受診等ご家族の協力支援を依頼している。月に1回以上の外出計画をしている。	毎月一回程度、花見や、道の駅、喫茶等に出かけている。気候の良い時は広々とした敷地の中を毎日散歩をしている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	毎週金曜日の移動販売に買い物に行かれたり年に数回ショッピングの機会を作っている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望により玄関まで電話の付き添い介助を行っている。又家族からの電話は取次いでいる。又手紙は事務所で切手を購入・集配でやり取りされている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節毎に室内の装飾を変えて季節感を味わって頂いている。食事時間にBGMを流しゆっくりと食べて頂いている。	共有空間にはソファが置かれ自由にくつろげるようになっている。食事の用意をする職員の姿や、匂いに生活感が漂っている。音、光、温度は適度であり居心地良く過ごせるように工夫されている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを準備し食後や寛ぎの時間に自由に利用出来る様にしている。職員も間に入って居心地の良い場所作りを心掛けている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使い慣れたものや好みのものは自由に持ち込んで頂いている。	ワゴンや小家具、位牌等、本人が希望するものを持ち込み、居心地良く過ごしてもらるようにしている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	案内板を設置し入居者にわかる様にしている。		